愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトC		
担当者(Instructors)	上條 憲二	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	4	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この授業は個人の主体性およびチームワーク力を育むことを主たる目的としている。「愛知東邦大学ブランドの外部発信」をテーマとしてチームで具体的な企画を立案しそれを外部に対して発信する。ひとつの形態として、YouTube、電子書籍出版を考えている。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	企画立案、プレゼンテーション、実施、課題抽出。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業の概要ブリーフィング	授業内容説明。成績評価の方法。各自自己紹介。	□
第2回	企画提案の進め方ガイダンス	企画提案の進め方の基本原則を説明する。	■
第3回	企画立案ブリーフィング	愛知東邦大学として、地域社会の問題解決にどのように貢献できるかという視点で企画立案を行う。	□
第4回	企画立案チーム編成	企画立案、推進の実行部隊としてのチームを編成する。チームリーダーを決める。	■
第5回	チームごとに企画立案	各チームごとに、愛知東邦大学の地域貢献企画を立案する。	□
第6回	チームごとに企画立案	各チームごとに、愛知東邦大学の地域貢献企画を立案する。	■
第7回	企画プレゼンテーション	企画案をメンバー全員に対してプレゼンテーションし、議論する。	□
第8回	企画プレゼンテーション	企画案をメンバー全員に対してプレゼンテーションし、議論する	■
第9回	チームごとに企画推進	企画を具体化させる。	□
第10回	チームごとに企画推進	企画を具体化させる。	■
第11回	チームごとに企画推進	企画を具体化させる。	□
第12回	チームごとに企画推進	企画を具体化させる。	■
第13回	企画推進状況中間発表	企画推進の状況を全員に対して中間報告し、議論する。	□
第14回	企画推進状況中間発表	企画推進の状況を全員に対して中間報告し、議論する。	■
第15回	企画修正、継続推進	企画案を修正し、継続的に推進する。	□
第16回	企画修正、継続推進	企画案を修正し、継続的に推進する。	■
第17回	電子書籍概要説明	AmazonKindleの概要を説明し、理解する。	□
第18回	電子書籍内容議論	内容を検討する。タイトル、内容、構成を検討する。	■
第19回	電子書籍内容議論	タイトル決定。内容、執筆担当者を決定する。	□
第20回	電子書籍原稿執筆	各自、執筆する。	■
第21回	電子書籍原稿執筆	各自、執筆する。	□
第22回	電子書籍原稿執筆	各自、執筆する。	■
第23回	電子書籍原稿完成	全体原稿を確認し、修正、加筆を行う。	□
第24回	電子書籍最終チェック	書籍内容の最終チェックを行う。	■
第25回	電子書籍入稿	AmazonKDPに入稿する。	□

第26回	電子書籍発売	Amazonで発売する。	■
第27回	電子書籍SNS拡散	書籍内容をSNSで拡散し販売につなげる。	□
第28回	電子書籍SNS拡散	書籍内容をSNSで拡散し販売につなげる。	■
第29回	学内活動報告	電子書籍の取り組みを学内で報告する。	□
第30回	全体総括	プロジェクトを通じての評価点、問題点、課題点を明確にする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

・日常生活の中で、地域が抱える問題について調べ、分析する。(毎週２時間) ・日常的に、新聞、読書を行い、社会の変化について視野を広く持つ。 ・書籍執筆のために文章を書く習慣を身に付ける。そのために毎日400文字の「日記」をつける。(毎日日記を書き1週間で2時間以上)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

・各自の企画発表、企画推進について、個別に意見・講評し、指導する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ **2019全学共通DP3**	企画着想・立案・精緻化・プレゼンテーションという一連の活動を行うことにより、自己の理解および他者の理解をはかり、課題解決に向けて主体的に活動することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

「企画立案と表現方法」を全体のテーマとし、毎回必ず一定の条件(文字数など)のもとで「課題」もしくは「質問」を提示する。それらの課題、質問に対する回答をもって、「出席」認定する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で紹介します。	
2		
3		
4		
5		